



伝統の町家住まいを進める 「大和・町家バンクネットワーク」発足

伝統的な町並みが持つ価値と上質の暮らしを広く・多くの人に呼び掛け、次世代に引き継げるコミュニティの維持を目指して、県内各地のまちづくり団体が結集する「大和・町家バンクネットワーク」が4月からスタートした。1日にはホームページも開設され、奈良県内の空き町家の情報や「まち歩き」などについての一元化情報が発信されている。

設立当初は、まちづくり活動を行う12団体、建築・不動産等の専門分野8団体、県内3市と奈良県で構成され、今後も参加団体の増加を目指す。また、事務局はNPO法人今井まちなみ再生ネットワーク（上田琢也理事長：橿原市今井町）に設置された。

現在、奈良県内では、橿原市今井町、宇陀市松山地区、五條市新町地区の3つが重要伝統的建造物群保存地区に選定されているが、そのほかにも、伝統的な町家が今も息づき歴史的な町並みを有する地区が多数存在している。



URL: <http://nara-machiya.com/>

しかし、近年は、空き家や空き地の増加、またその老朽化の進行により、良好な景観や地区の活力、安全性の喪失が懸念され、さらには、地域コミュニティの危機へと結びつくものとなっている。そのなか、伝統的な町家、町並みに対する価値が見直され、町家に住みたい、町並みが好きだという人々も増加しつつあり、県内各地区では、住民主体のまちづくり活動が行われ、それぞれ独自に、町家の利活用するために、ユーザーとオーナーとの橋渡しなどの取り組みが進められている。ただ、各地区単独での取り組みでは、情報にも限りがあり、また情報整理も困難な状況にあった。

そのため、県内情報を集約一元化発信する事で、多様なニーズに応えることが必要ではないかということで、今井まちなみ再生ネットワークや奈良県地域デザイン推進課などが呼びかけ、これまでネットワーク化の準備が進められてきた。

地域の魅力として、町家・町並みの存在は大きい。その保全のためには、ただ古い建物としての見方から、魅力的な伝統文化とコミュニティを持つ住まいとして見直す気運を醸成していくことが最も急がれており、町家情報ネットワーク化への期待は高い。

（山城 満）



大和・町家バンクネットワーク事務局（NPO法人今井まちなみ再生ネットワーク）

〒634-0812 橿原市今井町 3-8-5 夢ら咲き長屋内 TEL/FAX 0744-29-0050